

## 「天気」の電磁的方法での配布への移行とオンラインサービスの充実について

理事会

日本気象学会が発刊する機関誌「天気」は、会員による研究成果である原著論文、解説や調査の公表、学会からの公示情報や各種イベントのお知らせ、研究集会その他会員から提供された情報の掲載など、会員相互の情報交換の手段としての役割を担っています。この「天気」は毎月冊子体として刊行されてきており、あわせて、2002年からオンライン「天気」サイト (<https://www.metsoc.jp/tenki>) 上に記事別のPDFファイルが検索機能とともに掲載され、2021年からは各号の記事全てをまとめたPDFファイルが学会の電子情報サービスに登録された会員向けに公開も始まり、冊子体の配送と電磁的方法での配信によるサービスが行われているところです。

一方、「天気」の編集において、カラーの図を存分に使用したい(カラー印刷料負担の軽減)、規定されたページ数以上に原稿を執筆したい(原稿の長さの緩和)といった要望が多数寄せられるとともに、現行のように編集・印刷・配送を経る形態では会員向けに即時的な情報提供が難しいなども指摘されてきました。これらは、「天気」冊子体の印刷と配送を現行会費の中で行う必要があること、また、もっぱら「天気」を会員向けの連絡の公式手段としていることの制約によるものです。

加えて、近年、用紙やインクの価格が高騰し、かつ、印刷業界全体の景気低迷に伴って、2023年の「天気」の印刷委託費は2022年比で概ね1.4倍となることが見込まれており、価格増の傾向はその後も続く予想されます。これらのことから、現行のような冊子体での「天気」の個人会員向けの無償配布の継続は困難な状況となっております。

このような課題や状況に対応するため、第42期理事会にて「『天気』と関連する会員サービスに関する検討

ワーキンググループ」を設置し、「天気」の将来像についての検討を急ピッチで進めております。そして、「天気」の刊行について以下の方針に至りました。

将来的に、「天気」は電磁的方法での配布を基本とし、オンライン機能を活かしたコンテンツの提供など、会員サービスを一層充実させる。

上記方針のもと、直近2023年及び2024年以降の「天気」刊行事業と関連する会員サービスの変更は、デジタル技術を活用した経費削減およびオンラインコンテンツサービスの充実、情報交換や連絡手段の効率化等とあわせて、以下の案のように進めていく予定です。会員のみなさまにおかれましては、上記に記載しました「天気」を取り巻く現状にご理解いただけますよう、よろしくお願いいたします。

2023年	・「天気」冊子体を要する会員に対して無償配布を継続 ・オンライン機能を活かしたコンテンツの充実に向けた取り組みを推進
2024年以降	・「天気」の電磁的方法での配布への一本化 ・会員専用サーバー上での「天気」参照機能の高度化

具体的な移行においては、上記の「天気」および会員サービスに関する方針と変更案に対する会員の皆さまのご意見も踏まえて、丁寧に検討・作業を進めることとしております。今後、「天気」編集委員会が行う2023年の「天気」冊子体の要否の調査にあわせて、皆さまからご意見いただきたく、ご理解・協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。